

学生からしばしば年齢をきかれるのですが、なんでそんなに人の年齢が気になるの？ 教員が何才かなんて、どうでもよいじゃないですか。万が一重大事になるとして、指導教員の還暦が近づいたときくらいのものではないか。あんなるほど、今から還暦祝いの準備をするぞと、そういうことか。なかなか可愛い連中です。

ということで加齢臭。そんなもの気にしなさんな、と言いたいわけです。いいじゃないですか別に。言ってる相手も、言われたあなたも、一年に一才加齢するというこの世の平等。10年か20年か30年後には君たちだって加齢臭だよ臭い仲間だよと軽くかわす余裕が大人には求められているのではないのでしょうか。

そんなこと言っただけで気になるものは気になる。それはそうですね。そんな皆さんのために米国ペンシルバニア州のミトロさん (Susanna Mitro) たち四人組が、加齢臭が本当に存在するのか調べてくれてます。

若者、中年、高齢者の3グループの匂いを集めて、どのグループの匂いか嗅いで当てるクイズをしたわけです。授乳パッドをですね、脇の下に挟んで寝てもらうのです。5晩続けて。その間は、酒も煙草もカレーも担々麺も一切不可。石鹸だってシャンプーだって無香料の指定品を使ってもらう。日中は大事に密封して、触るときには手術用手袋。クイズには換気システム完備の専用ルームを使うという徹底ぶり。そこまでやったのだけど、薬についてだけは、できれば5日間飲んで欲しくないんだけど、そういうと高齢者が誰もいなくなってしまうから、やむなく認めたってところになんとも言えない悲しさが。そうやってピュアに純粋な100パーセントの体臭を集めて、さあどうぞと研究協力者の鼻先に押し付けた。この匂い、若者中年高齢者のどの匂い？

高齢者の匂いはわかるんだそうです。百発百中なんてわけにはいかないけど、偶然よりはよくあたる。しかしですね、高齢者の匂いは決して

嫌な匂いじゃなかった。匂いは弱く、若者と変わらない芳しさ。どうですみなさん、ホッとしたでしょう。「加齢臭はある！ しかし悪いものではない！」ドヤ顔で叫ぶ皆さまの姿がまぶたに浮かびます。ところがホッとするのはまだ早い。圧倒的に「くさい」とされてしまった人たちがいるんです。誰かって、中年男性です。衝撃的なグラフが論文には載ってます。Plos ONE という、インターネットさえあれば誰でも読める雑誌の論文なので、ぜひ皆さん、図1のAとBだけでも見てください。新陳代謝が活発でいかにも汗臭そうな若者男性よりも、中年男性のほうがくさいというグラフ。涙がにじんで前がよく見えません。

ところで不思議なんです、これだけ衝撃的なグラフを載せておきながら、ミトロさんたちはひたすら「高齢者の匂いがわかった！」という話ばかりをするのです。なぜなのでしょう。中年男性がくさいなんて、あまりに当たり前すぎるってことなのではないでしょうか。ミトロさん、2012年にはJETプログラムで来日し、岐阜の中学校で英語を教えていたとか。きいておけばよかったです。いや、広島から岐阜まで結構距離はあるんですが。

それにしたって、どうしてそこまで年齢を知りたいんですかね。だって他の動物の年齢なんて、気にしないじゃないですか。ぽっぽーと歩いているハトが何才かなんて、どうでもよいですね。でも老人のことは嗅ぎつける。他人の年齢をそこまで気にするのはなぜなのか、これは一つ、よく考えてみたいものです。



Profile — 平石 界

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学助手・助教、京都大学助教を経て、2012年4月より現職。博士(学術)。専門は進化心理学。